

自己評価報告書(最終報告)

コース等名

自然系コース(理科)

記載責任者

香西 武

■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 大学院の学生定員の充足

貴専攻・コースにおける過去5年間の大学院学生定員充足状況を分析・検証し、達成目標を設定するとともに、どのような具体的方策を立てて、目標達成に向けて取り組んでいくかを示して欲しい。

1. 目標・計画

前年度に引き続き大学院学生定員の60%以上の充足を目標として以下の工夫を行う。

- 学会・講演会等を利用し、学外で本学の紹介を行う。
- サイエンス普及活動により認知度のアップを図る。
- 志願者とeメールで事前指導を行う。
- 他大学教員・院生・学生に長期履修制度の説明を行う。
- 大学院説明会等での、本学院生による説明と勧誘を図る。
- 大学院のカリキュラムがネックとなって、受験を諦める志願者が多いため、大学院カリキュラムの変更(例えば、教育実践フィールド研究の選択必修化等)を、入試委員会と教務委員会で根気よく説明していく。
- 入試方法について検討する場を設けたい。
- 教員免許更新研修に積極的に取り組み、受講生に大学院進学への勧誘を行う。

2. 点検・評価

1. 学会や講演会の折に本コースの紹介を行い、また個人ベースでも知人を通してコースの紹介を行った。
2. 教育現場における研究会や研修会において、本コースの紹介や勧誘を行った。
3. 大学説明会以外でも、個人的な説明会を実施した。
4. 教員免許更新講習会では、受講生に大学院での研修、研究の意義を伝えた。
5. 大学院カリキュラムの変更を粘り強く訴えたが、変更に至らなかったのは残念である。今後も、引き続き取り組んでいきたい。

I-2. 学生支援の取り組み

学生の卒業時・修了時における「質」保証のためには、常日頃から学生に対する支援を推進していくことが必要である。

貴専攻・コースにおけるこれまでの学生支援の取り組み状況を分析・把握し、本年度どのような学生支援の取り組みを行うか、具体的な方策を示して欲しい。

1. 目標・計画

<教育支援>

○講義の際にも、教員採用試験をも考慮した説明を追加し、教科内容を充分学習できるよう指導し、学生・院生の学力向上を図る。

○長期履修学生に対しては、各人の学部教育を考慮して、きめ細かな指導を行う。

<教採対策>

○基礎ゼミでの自己紹介の仕方の指導・面接対策等、1年生から教採対策を行う。

○教員採用試験対策を学生に個別指導する。

2. 点検・評価

<教育支援>

1. 授業では教員としての基礎的知識が得られるよう、きめ細かな指導を行った。
2. 長期履修生に対しては、早期に免許が取得できるよう、指導を行った。

<教採対策>

1. 教員採用試験における実験や観察の指導を行った。
2. 教員採用試験の教科内容に関する指導を必要に応じて行った。また、小論、面接、模擬授業などの指導も行った。

II. 分野別

II-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

<教育支援>

- 院生に対しては、各自の希望を踏まえた研究課題を与え、各自が自主的に研究に取り組める環境を整備する。
- SSHを始め、各種のサイエンス普及活動に積極的に参加させ、科学への興味関心を持たせる。

<教採対策>

- 採用数の多い県・都市への受験を指導する。
- 学生が就職支援室を積極的に利用し、また支援室の行事に積極的に参加するよう指導する。
- 学生・院生が教員となった卒業生・修了生と直接話す場を提供し、学生・院生のモチベーションを高める。
- フレンドシップ事業を充実させ、学生が理科の実験を通して、児童・生徒と触れ合う機会を増やし、教員志望のモチベーションを高める。

<学生生活支援>

- 少人数制教育の特徴を生かしたperson to personの教育を行い、卒業研究についても学生の自主性を重んじる。

2. 点検・評価

<教育支援>

1. 学生の自主性を尊重し、研究室及び研究テーマを設定するように指導を行った。
2. SSHなどのサイエンス普及活動に学生を参加させ、科学と教育について興味を持たせるようにした。

<教採対策>

1. 幅広く受験するように指導を行った。
2. 就職支援室を積極的に利用するように指導した。
3. 教育実習前の7月に、フレンドシップ事業を通して、児童にふれあう機会を作り、教材の作成から指導案を作り、授業を行う経験をさせた。
4. 現場で活躍している修了した院生を招いて、教育現場の様子や仕事内容など具体的な話を聞いた。

<学生生活支援>

1. 一人一人の個性を生かした指導を行った。
2. 学生の自主性を尊重し、卒業研究に当たるように指導した。

II-2. 研究

1. 目標・計画

○教員の研究方針については、各人に任されている。

○理科教室内はもとより、他コースや他大学の教員等との連携による共同研究を推進する。

○大学院生や外国人研究者の研究環境については、それを保証する。

○修士学生の研究課題については、本人の意志を尊重し、教員と議論の後、研究テーマを決める。研究の進展上、必要あれば指導教員の変更を含め、迅速に対応する。

2. 点検・評価

1. 各教員がそれぞれの研究方針に基づき、研究を行い、論文として発表した。
2. 他大学の教員と積極的に交流し、共同研究を実施した。
3. 諸外国の研究者とも共同研究を行った。
4. 修士課程の学生も積極的に外国へ行かせ、授業実践を行ったり、情報収集をするように指導した。
5. 外国人留学生に対しては、それぞれの国の課題を分析し、問題の改善が図れるよう指導した。

Ⅱ－3. 大学運営

1. 目標・計画

- 大学運営に対しては、積極的に協力する。しかし、大学の方針に盲従するわけではなく、是々非々に対応する。
- 教員の研究環境の改善に努力したい。

2. 点検・評価

1. 積極的に協力し、設置審の基準をみたした。大学の方針で意見を述べるべきところは意見を述べた。
2. 学長裁量経費でEPMAコントロールシステムを導入し、研究環境の改善につとめた。しかし、様々な業務のため、研究のための時間を十分に確保することができなかったのは残念である。

Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携、国際交流等

1. 目標・計画

- 附属学校とは、従来通り連携を深めていく。
- 産官学連携に努める。
- 教員10年次研修や教育支援アドバイザーでの交流等、教員との連携を深め、大学院進学の勧誘も行う。
- SSHや地域連携講座で、科学の普及に努める。
- JICA理数科教育研修にとどまらず、海外への調査・学術協力をを行い、国際交流に努める。
- 徳島県立博物館やあすたむらんど徳島との連携を通じて、生涯教育への貢献に努める。

2. 点検・評価

1. 附属小、中学校とは緊密に連絡を取り合い、連携を深めた。
2. 10年次研修、教員免許更新講習、教育支援アドバイザー事業なども積極的に行った。
3. ケニア、エチオピア、フランス語圏アフリカ、アフガニスタン等の研修に積極的に協力した。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

本学の将来を見据えながら、さまざまな取り組みや提言を行った。